

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
北海道エコ・動物自然専門学校		平成14年11月21日		佐藤 俊		〒061-1373 恵庭市恵み野西5丁目10-4 (電話) 0123-36-2311			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人滋慶学園		昭和58年12月23日		浮舟 邦彦		〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話) 03-5878-3311			
分野	認定課程名		認定学科名			専門士		高度専門士	
商業実務	商業実務専門課程		動物飼育学科			平成6年文部科学大臣告示 84号		—	
学科の目的									
動物園・水族館において、展示動物を通じ自然保護を伝えるインタープリターであり、世界標準の動物福祉哲学を構築し、更に、科学を核とした飼育アプローチが出来、動物の守護者である飼育員人材を養成する									
認定年月日									
平成26年3月31日									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	62単位	136単位		54単位	7単位			
単位									
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数	
80人		95人		0人		4人		13人	
17人									
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 平素の各科目単位認定は最終課題・授業参加度・出席率(追試験・再試験含む)の合計(100点満点)によりABCDEFに置換し、GPAを算出する。60点以上D評価以上を合格点とする。 【GPAを算出する計算式】 「GPA＝(該当授業科目の単位数×各授業科目で得たGP)の合計÷当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の			
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏 季:7月から9月までの間で6週間以内 ■冬 季:12月から1月までの間で6週間以内 ■学年末:3月31日				卒業・進級条件	学年単位取得及び卒業の認定は、本校の教育課程に定める各学年における全ての各学科科目の単位を修得したとき、学校長が行う。			
学修支援等	■クラス担任制: 無 ■個別相談・指導等の対応 ・1欠席ごとに電話連絡2欠席で保護者連絡 ・年3回、節目・学期ごとのカリキュラム面談にて個別相談 ・全教員がメンターとなり、学生が相談できる環境を増やしている				課外活動	■課外活動の種類 国内研修・海外研修など ■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等			
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) 動物園、水族館、牧場、ペットショップ ■就職指導内容 担任就職指導 就職担当者面談 履歴書指導、面接指導等 ■卒業生数 56 人 ■就職希望者数 41 人 ■就職者数 41 人 ■就職率 : 100.0% % ■卒業者に占める就職者の割合 : 73.2% % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和7年度卒業生に関する令和8年5月1日時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等)※3	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			
中途退学の現状	■中途退学者 5名 令和7年3月31日時点において、在学者121名(令和5年3月31日卒業者を含む) 令和8年3月31日時点において、在学者109名(令和8年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、精神疾患 ■中退防止・中退者支援のための取組 個別面談の実施、スクールカウンセラーの活用 等				■中退率 4.5 %				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ○兄弟姉妹・保護者特待生制度 ○単位減免制度 ○卒業生減免制度 ○特待生制度 ○大学入試共通テスト受験者特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無								
当該学科のホームページURL	https://www.heco.ac.jp/								

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業・業界の求める知識・技術が教育課程に反映されるように業界の動向に関して情報交換を行い、教育課程の改善および改定を定期的実施することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、教育課程の編成において企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識、技術を反映するための連携体制等を行う機関として活動し、職業教育の水準の維持向上を図り、実践的な職業教育を行うことを目的とする。
教育課程編成委員会後に北海道エコ・動物自然専門学校の運営会議で審議され、再度、学科会議で審議内容、意見、要望等を再確認し教育へ反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
服部 寛	東海大学札幌キャンパス 名誉教授	2026/4/1～2028/3/31	①
本田 直也	一般社団法人「野生生物 生息域外保全センター」代表理事	2026/4/1～2028/3/31	③
下山 記弘	北海道エコ・動物自然専門学校 事務局長	2026/4/1～2028/3/31	教育課程編 成責任者
佐々木 拓司	北海道エコ・動物自然専門学校 動物自然学科 教務部 長	2026/4/1～2028/3/31	教育課程編 成責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数：2回 開催時期：7月及び2月

(開催日時)

令和7年度 第1回 令和7年7月開催
令和7年度 第2回 令和8年2月開催
令和8年度 第1回 令和8年7月開催

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

カリキュラム構築においての社会的要望、業界的要望を反映させる為、業界の第一線企業との連携を図る。編成委員会と共に随時カリキュラム評価を行い、学生授業アンケート、第三者評価をもとに企業、業界からヒアリングし、再度、編成委員会会議にて議論し見直す。また、外部委員より業界実務実習において企業、職種、時期の選定に再考の余地が指摘され、今年度1年次実施の業界実務実習Ⅰの実習地及び企業の見直しを行い実施する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

動物園や水族館の研修に参加することで、業界を知る機会とし、また、実際に約1週間にわたり業界研修に行くことにより、日々進化する最新の技術知識を肌で感じる機会を設け、その後の園長特別授業において、研修での体験を繋げ、学内授業に活かし、次代の動物園飼育員人材の育成を目指すとともに、飼育員としての知識・哲学・動物観・自然観を養う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

現場見学を通じ、企業・業界の第一線で活躍する方々からの直接ガイドをいただき、将来の夢を現実のものへと意識を具体化する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
業界研修	連携した企業・施設で研修を行い日々変化する業界の技術や知識指導を受け学ぶ	那須どうぶつ王国、神戸どうぶつ王国

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

在校している学生たちも多様化しており一人一人を入学から卒業・就職まで導くために、職員それぞれがカウンセリングマインドを持つことが必要とされている。そのために指導と教授力の向上カウンセリング力の向上を目的とする。また、専門技術知識を伝えるに当たり常に業界の新しい情報を入手し、知識技術の向上を図る必要があり、常に研鑽を続けることを目的とする

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

バイオス飼育分科会:2025/7/5

飼育技術学会 :2026/3/4、5

②指導力の修得・向上のための研修等 令和86年12月開催予定 北海道専修学連動物部会教員研修 学科長1名 担当教員3名

文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会

2025年12月21日

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

バイオス飼育分科会:2026/7/30

飼育技術学会 :3月

②指導力の修得・向上のための研修等

文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会

2026年8月4日または12月に参加

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

日々の学校運営については学内の学校長および全教職員会議である「全体会議(定例会隔週1回)」にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行っている。また、学校関係者評価委員会で得られた外部評価における意見や提案はその内容を検討し12月には改善計画を含めた事業計画を策定している。自己点検自己評価については、年度修了後に「計画」「実践」「評価」の一連の評価を行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し自己評価点検を実施し学校関係者評価との連動により学校運営に活用している。一方教育活動についても学校長および全教職員会議である「全体会議(定例会毎週1回)」にて問題の検討や計画の修正等を検討し、年2回の教育課程編成委員会への報告により毎年次年度カリキュラムへ反映し日々の授業運営の改善に取り組んでいる。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	・理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校の特色は何か ・学校の将来構想を抱いているか
(2)学校運営	・運営方針は定められているか 2-5事業計画は定められているか ・運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか ・人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか ・意思決定システムは確立されているか ・情報システム化などによる業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	・各学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか ・修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか ・カリキュラムは体系的に編成されているか ・学科の各科目はカリキュラムの中で適正な位置づけをされているか ・キャリア教育の視点にたったカリキュラムや教育方法などが実施されているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・教員の専門性を向上させる研修を行っているか ・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか ・資格取得の指導体制はあるか
(4)学修成果	・就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図れているか ・資格取得率の向上が図れているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・就職に関する体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学外実習、インターンシップ、海外研修などについて十分な教育体制を整備しているか ・地域に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	・学生募集活動は適正に行われているか ・学生募集において教育成果は正確に伝えられているか ・入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備は出来ているか
(9)法令等の遵守	・法令、設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関しその保護のための対策が取られているか ・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ・自己点検自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・国際交流	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか

※(10)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

自己点検自己評価については、「計画」「実践」「評価」の一連のサイクルを行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し懇談を通じての意見や要望を聴取する。聴取した内容は、学校運営に関する事項は、学内の学校長、副校長、教務部長、部署長の会議である「運営会議(定例会毎週1回)」にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行い12月には改善計画を含めた事業計画を策定する。一方教育活動については教員及び学科長で構成される学内組織である「教育改革委員会(定例会月1回開催)」にて検討し、1月には次年度カリキュラムの改定にむけての検討ならびに日々の授業運営の改善を実施している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年9月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
白倉 慶大	(株)ジュイフルエーケー ペットワールド店長	2026/4/1～2028/4/31	卒業生代表
片桐 有香子	学生の保護者	2026/4/1～2028/4/31	保護者代表
神田 大介	北海道恵庭北高等学校 進路指導部長	2026/4/1～2028/4/31	高等学校関係者
武石 明菜	ドッグサロン Wan point 代表	2026/4/1～2028/4/31	地域関係者
伊藤 翼	株式会社ペットハウステン・テン 営業推進企画マネージャー	2026/4/1～2028/4/31	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 毎年6月30日

(ホームページ)

<https://www.heco.ac.jp/disclose-information/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対しては、業界視点を越えた教育施設としての社会活動からの評価視点を得ることが出来るため、これらを学校教育の客観的な評価、運営での業界目線、地域目線、保護者目線、卒業生目線、そして行政目線から第三者の外部評価と意見をいただく委員会として位置づけをしている。したがって、その情報提供は、学科ごとに設けた教育課程編成委員からの教育評価や産学連携、業界連携についての報告を密に行うとともに、入学式、実習報告会、懇談会、研究発表会、学園祭、卒業式等の行事にも委員の出席をいただき、学園の生の活動の理解を得る機会を持つように心がけとともに、ホームページを通じて積極的に学校情報を発信し、学校の運営状況について知っていただく機会を持つ努力と教育施設としての水準の向上に努めている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科等の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	(10) 国際連携の状況
(11) その他	(11) その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

情報提供はHPにて公開をしている

自己点検自己評価

<https://www.heco.ac.jp/disclose-information/>

別紙様式4

<https://www.heco.ac.jp/disclose-information/>

法人決算書及び監査報告書

<https://www.heco.ac.jp/disclose-information/>

<https://www.heco.ac.jp/disclose-information/>

学校関係者評価委員会報告書

<https://www.heco.ac.jp/disclose-information/>

学校関係者評価結果及び改善方策

<https://www.heco.ac.jp/disclose-information/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程動物自然学科)																
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			解剖生理学概論	動物の生命維持の仕組みと、生命体としての動物を理解出来るように、実際に魚類・両棲爬虫類・鳥類・哺乳類の体の階層性について学修する。	1前	30	1		○		○			○		
○			生物学基礎	生物に共通で見られる《法則性・普遍性》と、様々な分化した《多様性》を解明し、生命活動を自然現象から理論的に説明できることが生物学の目標であり、動物を理解する上での基礎である	1前	30	1		○		○				○	
○			化学基礎	物質の総合作用を研究する自然科学の一部門である。原子・分子のレベルで解明し、化学反応を用いて新しい物質を生み出し、自然界の多様性を理解する動物分野の必須科目である。	1前	15	1	○			○				○	
○			生態学概論	生物は環境に影響し、また、環境は生物に影響する。更には生物同士の相互作用を理解しようとする学問である。	1前	15	1	○			○				○	
○			動物行動学概論	動物の行動メカニズムを学び、どのように種特有の行動として表れているかの理解を深め、動物の自然環境下での行動を妨げない飼育環境づくりの考え方を学ぶ。	1前	15	1	○			○				○	
○			産業動物学概論	我が国は動物園・水族館において哺乳鳥類の飼育方法や飼料の選定など本学問を応用してきた歴史的背景がある。本学門は飼育者必須の応用科学である。	1前	15	1	○			○				○	
○			動物病理学概論	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について修得する。	1前	15	1	○			○				○	
○			動物飼育概論	主に動物園・水族館で飼育されている種を中心に生態学、動物行動学、動物福祉論を用いて、飼育実習に応用する知識を修得する。	1前	15	1	○			○				○	
○			動物福祉学概論	飼育動物の福祉基礎となる生命倫理の考え方について学び、動物園学の概論として学修する。	1前	15	1	○			○				○	
○			教養	公立・企業立の動物園水族館の採用試験対策講座の概論として開講し、中学高校の教科まで振り返る。	1前	15	1	○			○				○	
○			爬虫両棲類学概論	爬虫類・両生類は進化分類上は遠縁であるが、環境変化に敏感である事や陸上性で四肢性であり変温動物という共通点から考察する学問である。	1前	15	1	○			○				○	
○			海洋生物学概論	海洋生態系の構造と機能、および生物多様性と海洋生物の分類、形態、生活史、生理、生態、進化を学修する飼育員必須の科目である。	1前	15	1	○			○				○	
○			海棲哺乳類学概論	鯨類、鯨脚類の科学的に正確な知識や研究の現状、どのようにして水族館で研究の成果が得られたかなど、水族館飼育員の必須科目を修得する	1前	15	1	○			○				○	
○			環境教育学概論	次世代の為に地球環境を残す事を最大の目的とした学問。限り有る地球であることを来園者、子供達にどの様に伝え学んでもらうのか考察し、自ら表現する科目である	1前	15	1	○			○				○	
○			業界研修	全国、あるいは海外の実際の現場を見学し、レクチャーやガイディングを受け、将来の職業人としての身構え、心構えを修得する。	1前	45	1			○		○	○			○
	○		愛玩動物飼養管理士総論	ウサギ、マウス、モルモット、鳥等のエキゾチックアニマルの生態、飼養管理、伴侶動物の生理生態適正飼育及び疾病を理解する。	1前	30	2	○			○			○		

	○	愛玩動物飼養 管理士対策講座	愛玩動物飼養管理士検定試験に向けた対策講座を実施します。	1 後	15	1	○			○		○					
	○	生物学実験	生物の構造や営みに共通で見られる《法則性・普遍性》と、さまざまに分化した《多様性》を解明し、生命活動を自然現象から理論的に説明できる体系を作ることが生物学の目標となります。生命科学の基本である生物のしくみを学び、他の講義や動物自然応用科学を理解するための基礎科学です。	1 前	30	1		○		○						○	
	○	生物学応用演習		1 後	60	2		○		○						○	
	○	生化学概論	物質の総合作用を研究する自然科学の一部門である。原子・分子のレベルで解明し、化学反応を用いて新しい物質を生み出し、自然界の多様性を理解する動物分野の必修科目を修得します。	1 前	15	1		○		○						○	
	○	遺伝生化学	生命現象を化学的に理解しようとする学問。動物栄養飼料学、海洋生物学、微生物学、薬理学の基礎となる自然科学応用分野を修得します。	1 後	30	2	○			○						○	
	○	微生物学	微生物とは細菌、古細菌、原生生物、真菌類など、顕微鏡の大きさ以下の生物を指します。生化学的な解析と地球規模の因子の一つとして生態学的ラージスケール解析を修得します。	1 後	30	2	○			○						○	
	○	解剖生理学 魚類・爬虫両棲類	動物の生命維持の仕組みと、生命体としての動物を理解出来るように、実際に魚類・両棲爬虫類・鳥類・哺乳類の各々動物を用いて体の階層性について学修し、肉眼的解剖だけではなく、顕微鏡を用いて細胞・組織レベルの理解が出来るように実践形式で進行する。全ての動物分野に必須の知識を修得します。	1 前	30	1		○		○						○	
	○	解剖生理学 鳥類・哺乳類		1 後	60	2		○		○						○	
	○	産業動物学総論	我が国は動物園・水族館において哺乳鳥類の飼育に本学問を用いた歴史的背景があり、飼育者必須の応用科学を修得します。	1 前	15	1	○			○						○	
	○	動物栄養飼料学	解剖学と畜産学の応用から種特異性を考慮し、飼育動物種に相応した飼料を選択し給餌する栄養学的視点の知識を修得します。	1 後	30	2	○			○						○	
	○	動物繁殖生理学	動物園・水族館において希少種繁殖は使命です。本学問は生殖現象を解剖学的、内分泌的に捉え、飼育者に必須の機能・ホルモン・遺伝を修得します。	2 前	30	2	○			○						○	
	○	獣医学研究	生物学・解剖学・畜産学・飼料学と修得した知識を飼育技術者が職業に応用するための科学的視点を修得出来ます。	2 後	15	1		○		○						○	
	○	生態学総論	生物と環境、または生物同士の相互作用を理解しようとする学問です。生物はさまざまな形で周囲の環境と関わりを持つと同時に、多数の生物種とも相互作用しながら生活しています。生物種の「生活の法則」を解明することが生態学の目的です。この理解から動物自然分野で応用できる知識を修得します	1 前	15	1	○			○						○	
	○	生態学各論		1 後	30	2	○			○						○	
	○	保全生態学総論	人類の住む世界は、急速にその生態的多様性を減少させており、自然から物質、生物を奪い急速に景観を改変しています。その結果、絶滅速度は加速し、生態系の質の低下や消失が起き、自然は破壊されています。故に、飼育員は種の保存と自然の魅力を発信する義務がありその知識を修得します。	2 前	30	2	○			○						○	
	○	保全生態学研究		2 後	30	1		○		○						○	
	○	動物園デザイン学総論	生物学、化学、工学、造園学・野生動物管理学・植物学・グラフィックデザイン、環境教育・都市計画・動物園の基本計画と展示設計など、動物飼育それ自体を「デザイン」し、動物園設計の決定プロセスに「デザイン」を反映させる。また、動物園を訪れる人々に展示から自然保護を意識させ、自治体、政府の政策に生息域内外保全を盛り込ませることが出来る可能性を秘めた学問である。	1 前	15	1	○			○						○	
	○	動物園デザイン学各論		1 後	30	2	○			○						○	
	○	動物園デザイン学特論		2 前	30	2	○			○						○	
	○	動物園デザイン学研究	本学問のゼミナールとして開講し、卒業研究として発表することを目的とします。	2 後	30	1		○		○						○	
	○	動物病理学総論	疾病動物の飼育において、どのような状況にあり、どのようなケアが必要かは、発病のメカニズムと病理学的特徴を理解する必要がある。生理機能の障害から病気が発生し、どの様に変化し、回復していくのか。病変の特徴から病理検査方法を専門用語用いて修得します。	1 前	15	2	○			○						○	
	○	動物病理学各論		1 後	30	2	○			○						○	

	○	動物感染症学総論	動物を取り巻く環境と微生物、寄生虫の関係について理解し、感染症の発生機序、原因となる病原体の特徴を生物学的に修得します	2 前	30	2	○			○			○	
	○	動物病理研究	本学問のゼミナールとして開講し、卒業研究として発表することを目的とします。	2 後	30	1		○		○			○	
	○	爬虫両棲類学総論	両棲類・爬虫類は変温動物であり、その特徴から環境変動に敏感であるといえます。また、その容姿から忌み嫌われ駆除されることもあれば、逆にコレクターによる乱獲も絶滅に拍車を掛けています。飼育員はこの魅力的な動物たちを保存し未来に伝える義務があり、その技術、知識を修得します。	1 前	15	1	○			○			○	
	○	爬虫両棲類学各論		1 後	30	2	○			○			○	
	○	爬虫両棲類学特論		2 前	30	2	○			○			○	
	○	爬虫両棲類学研究	本学問のゼミナールとして開講し、卒業研究として発表することを目的とします。	2 後	30	1		○		○			○	
	○	海洋生物学総論	地球上に生きる動物界のそのほとんどが海に生息している。これら海洋生物の起源、分類、系統について解説する。また、水圏生態系の多様性や種間の相互関連、海洋そのものの科学を含めた幅広い知識を提供し考察させる。さらに、海洋環境とヒトの関わりや今後の水族館の意義や活動についても修得します。	1 前	15	1	○			○			○	
	○	海洋生物学各論		1 後	30	2	○			○			○	
	○	海洋生物学特論		2 前	30	2	○			○			○	
	○	海洋生物学研究	本学問のゼミナールとして開講し、卒業研究として発表することを目的とします。	2 後	30	1		○		○			○	
	○	海棲哺乳類学総論	海棲哺乳類とは、どのような動物であるか、その歴史を辿り、進化・系統学的な基礎知識と人間との共存が可能な生物かを考察し、海棲哺乳類の保護・管理の在り方、飼育展示用の動物の入手について、日々の日常管理と生態を記録・観察することの重要性を学修し、種の保存、繁殖生理の知識と技能について修得します	1 前	15	1	○			○			○	
	○	海棲哺乳類学各論		1 後	30	2	○			○			○	
	○	海棲哺乳類学特論		2 前	30	2	○			○			○	
	○	海棲哺乳類学研究	本学問のゼミナールとして開講し、卒業研究として発表することを目的とします。	2 後	30	1		○		○			○	
	○	環境教育学総論	人間活動の現時点での問題点を明らかにする一方、あとに続く世代のためにも、環境を改善し、その望ましい姿を持続させることを目的とした教育。「環境の保全のための意欲増進及び環境教育の推進に関する法律」に基づき、環境にかかわる適正な価値判断ができ、動物園・水族館、自然ガイドなど動物自然分野で活躍するための必須科目です。課題発見・解決、教材開発などを通し、チームワークを養い、協働作業の大変さ、大切さを学び、楽しく、そして論理的に自然環境の重要性を説	1 前	15	2	○			○			○	
	○	環境教育学各論		1 後	30	2	○			○			○	
	○	環境教育学特論		2 前	30	2	○			○			○	
	○	環境教育学研究	本学問のゼミナールとして開講し、卒業研究として発表することを目的とします。	2 後	30	1		○		○			○	
	○	インタープリテーション論	自然公園やミュージアム、その他社会教育の現場で行われる、体験や地域性を重視した、楽しくて意義のある教育的なコミュニケーションのことです。他の講義、実習、特に環境教育論で身に付けた知識・技術をアウトプットする手技を修得し、動物園・水族館、自然ガイドの現場で活躍できるプレゼンテーション技術を修得します	1 前	15	1	○			○			○	
	○	インタープリテーション実践		1 後	30	1		○		○			○	
	○	動物行動学総論	動物の生得的行動と習得的行動への理解を深め、飼育下動物の環境適応を判断する知識を学び、不適応行動への適切なアプローチ法を解説する。	1 前	15	1	○			○			○	
	○	行動分析学	習得的な行動を論理的に分析・評価するための基礎を学び、基礎知識を応用し、動物のトレーニング等に活用する方法を解説します	1 後	30	2	○			○			○	
	○	応用行動分析学	行動分析学を用いて動物のトレーニングや行動療法を行うための知識を学びます。	2 前	30	2	○			○			○	
	○	動物行動学研究	本学問のゼミナールとして開講し、卒業研究として発表することを目的とします。	2 後	30	1		○		○			○	

	○		動物飼育総論	同講義概論、飼育協働演習、飼育実践で修得した知識・管理能力を実際の飼育現場で応用するため、現場で想定される様々なシチュエーションから危機管理を中心に予防措置、ハンドリング、保定、ハズバンドリートレーニングと飼育動物を安全に且つ確実にコントロールする能力を修得します。	1 前	15	1	○			○			○	
	○		動物飼育各論	同講義概論、飼育協働演習、飼育実践で修得した知識・管理能力を実際の飼育現場で応用するため、現場で想定される様々なシチュエーションから危機管理を中心に予防措置、ハンドリング、保定、ハズバンドリートレーニングと飼育動物を安全に且つ確実にコントロールする能力を修得します。	1 後	30	2	○			○			○	
	○		動物飼育特論		2 前	30	2	○			○			○	
	○		動物飼育研究	本学問のゼミナールとして開講し、卒業研究として発表することを目的とします。	2 後	30	1		○		○			○	
	○		動物園学総論	動物園学入門を使用し、日本の動物園水族館の歴史から近現代の動物観を動物福祉論を中心に社会科学的な視点から概論として修得します。	1 前	15	1	○			○			○	
	○		動物園学各論	総論を更に発展させ博物学から西洋的動物観と展示と福祉を融合したオックスフォード大学発祥の動物園学を修得します。	1 後	30	2	○			○			○	
	○		動物園学特論		2 前	30	2	○			○			○	
	○		動物福祉学研究	本学問のゼミナールとして開講し、卒業研究として発表することを目的とします。	2 後	30	1		○		○			○	
	○		公衆衛生学	動物の生命と健康に障害を及ぼす各種要因についての動物衛生とズーノーシス、環境衛生を主軸とした動物防疫知識を修得します。	2 前	30	2	○			○			○	
	○		動物薬理学	薬は獣医師が処方するものであるが、その薬理作用及び副作用は飼育員が観察し、変化を確認する必要がある。薬理を理解することで現場で役立つ知識を修得します。	2 前	30	2	○			○			○	
	○		生物学研究	本学問のゼミナールとして開講し、卒業研究として発表することを目的とします。	2 後	30	1		○		○			○	
	○		アニマル トレーニング論	学習理論を用いた様々なトレーニング法を学びます	2 前	30	2	○			○			○	
	○		霊長類学	霊長類の分類・生態・行動・飼育・展示・トレーニングの知識を修得します	2 前	30	2	○			○			○	
	○		鳥類学総論		2 後	30	2	○			○			○	
	○		馬学	馬の飼養の歴史は長く、紀元前3000年にまで遡ります。各国に適応した馬事文化が築かれており、その品種、馴致、調教を修得します	2 後	30	2	○			○			○	
	○		インターンシップ	全国の動物自然分野の施設・企業に赴き、修得した知識、技術をどの様に現場で活かすのか実習することで卒業後職業人として活躍できる身構え、心構えを修得します。	2 前	90	2			○		○	○		○
	○		研究発表対策講座	2年間の集大成として、課題発見・解決のプロセスを重視し卒業制作に取り組み、成果を発表します。常日頃、疑問を持ち科学的視点で飼育・野生動物や自然環境を考察し、その上でどの様に論理的に解決したかを、多くの方々に分かり易く伝えることが出来るプレゼンテーション技術を修得します。	2 前	30	1		○		○		○	○	
	○		卒業研究発表実践		2 後	150	5		○		○		○	○	

	○		動物飼育協働演習A	上級生と協働で飼育活動に取り組むことで、種の特徴を知り、基本的行動様式と国際基準である「5つの自由」を意識した動物福祉を遵守し飼育及びトレーニング法を理解する。 特に動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め、動物の観察力や課題解決能力を身につけ一人でやり遂げる責任感を修得します。	1 前	30	1		○		○		○				
	○		動物飼育協働演習B		1 前	30	1		○		○		○				
	○		動物飼育協働演習C		1 前	30	1		○		○		○				
	○		動物飼育協働演習D		1 前	30	1		○		○		○				
	○		動物飼育協働演習E		1 前	30	1		○		○		○				
	○		動物飼育実践A	実際に動物の飼養管理を行うことにより、種の特徴を知り、基本的行動様式と国際基準である「5つの自由」を意識した動物福祉を遵守し飼育及びトレーニング法を理解する。 特に動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め、動物の観察力や課題解決能力を身につけ一人でやり遂げる責任感を修得します。	1 後	60	2		○		○		○				
	○		動物飼育実践B		1 後	60	2		○		○		○				
	○		動物飼育実践C		1 後	60	2		○		○		○				
	○		動物飼育実践D		1 後	60	2		○		○		○				
	○		動物飼育実践E		1 後	60	2		○		○		○				
	○		動物飼育実践実習A		1 後	45	1		○		○		○				
	○		動物飼育実践実習B	1 後	90	2		○		○		○					
	○		動物飼育指導演習A	協働演習と実践で修得した飼養管理能力を1年生に指導し、他者と協力して飼育作業を行うことで協働性とリーダーシップを身に付け、飼育マネジメント能力を修得します	2 前	60	2		○		○		○				
	○		動物飼育指導演習B		2 前	60	2		○		○		○				
	○		動物飼育指導演習C		2 前	60	2		○		○		○				
	○		動物飼育指導演習D		2 前	60	2		○		○		○				
	○		動物飼育指導演習E		2 前	60	2		○		○		○				
	○		動物飼育指導実習A		2 前	45	1		○		○		○				
	○		動物飼育指導演習B		2 前	90	2		○		○		○				

	○		基礎保全飼育演習	主に希少生物保全コース選択者がスムーズに3年生に移行できるよう、保全セーターにおいて基礎的な飼育管理と希少生物の取り扱いを実践的に学びます。	2 後	60	2		○		○		○	○	
	○		基礎保全飼育演習		2 後	60	2		○		○		○	○	
	○		基礎保全飼育演習		2 後	60	2		○		○		○	○	
	○		基礎保全飼育演習		2 後	60	2		○		○		○	○	
	○		基礎保全飼育演習		2 後	60	2		○		○		○	○	
	○		教養試験対策講座	公立・財団立の動物園・水族館に就職するためには、採用試験に合格しなければならない。主に公務員採用試験と同等の教養と生物、理系の専門試験、面接、集団討論を課され、高倍率の難関試験となっている。本講義は採用試験に特化した授業である。	1 前	15	1	○			○			○	
	○		地学 I		1 後	30	2	○			○			○	
	○		人文社会 I		1 後	30	4	○			○			○	
	○		現代文 I		1 後	30	4	○			○			○	
	○		数的推理 I A		1 後	30	2	○			○			○	
	○		数的推理 I B		1 後	30	2	○			○			○	
	○		数的推理 I C		1 後	30	2	○			○			○	
	○		数的推理 I D		1 後	30	2		○		○			○	
	○		人文社会 II		2 前	60	4		○		○			○	
	○		現代文 II		2 前	60	4		○		○			○	
	○		数的推理 II A		2 前	30	2		○		○			○	
	○		数的推理 II B		2 前	30	2		○		○			○	
	○		数的推理 II C		2 前	30	2		○		○			○	
	○		数的推理 II D		2 前	30	2		○		○			○	

	○		基礎数学	希少生物保全コースで行う統計学の前段階として数学の考え方を学ぶ。問題固有の解き方だけでなく、柔軟性（似たタイプの問題にも対応）をもった広い視野を養う。	2 後	30	2		○		○			○	
	○		基礎英語	希少生物保全コースで行う英語の前段階として基礎的な英語力を身につけるための授業である	2 後	30	2		○		○			○	
	○		ビジネスマナー基礎	インターンシップや就職活動において求められる適切な行動様式を理解するためには、社会人としての基本的行動原理を把握する必要がある。言葉遣い、身だしなみ、面接時の立ち居振る舞いがどのように評価されるのかを学び、業界で重視される行動規範を専門用語を用いて修得する。	1 後	8	1		○		○			○	
	○		ビジネスマナー応用		1 前	8	1		○		○			○	
合計			122 科目			174単位4111単位時間									
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
卒業の認定は、専門学校設置基準に従い、卒業までに年間30単位以上2年間62単位以上、且つ年間800単位時間以上の修得が法令により義務付けられている。先の法令単位を修得した者を対象として、学校長、教務及び学科教員により教務単位認定会議において学校長が認定を行う。卒業が認定されない学生は卒業延期もしくは留年となる。卒業判定の結果は、本人及び保護者へ直接告知し、面談によりその後の本人の希望を優先した進路相談とカウンセリングを実施し、将来のキャリアの方向性を決定する。留年及び卒業の延期者については、その後の修得が必要な単位を明確にし、卒業に必要な不足の単位を修得するための補講並びに補習、試験を実施し、合格点に達した者について再度単位認定会議を実施にて卒業の認定を行う。								1 学年の学期区分				2 期			
								1 学期の授業期間				1 5 週			

（留意事項）